

# 茅ヶ崎市立赤羽根中学校 令和7年度学校評価アンケート 集計結果とまとめ(自己評価)

実施期間:令和7年11月 Google Workspace の Google フォームにより回答。

回答数は、生徒 333 件(対象生徒数:389 名・回答率:86%)、保護者 160 件(内訳:1 年 44 件・2 年 53 件・3 年 63 件/在籍生徒数>家庭数)。生徒 3.3 人、保護者 1.6 人がおよそ1%に当たる。

この調査は、学校運営の改善を目的として、本校在籍の生徒とその保護者の協力により実施しています。右ページ「学校評価アンケート集計結果一覧」をご参照のうえお読みください。また、個々の項目の集計結果については、本校ホームページに掲載していますので、そちらをご覧ください。

調査結果の分析概要は次のとおりです。

## 《調査結果に基づく現状の分析》

令和7年度は「自他ともにやさしさでつつみあえる学びの場を目指して」を重点目標とし、《信頼される学校》《安心して生活できる学校》《学びやすい学校》になることを目指して教育活動に取り組んできました。その取り組みへの評価は、生徒は、令和元年から概ね横ばいで肯定的であることがうかがえますが留意する点もあります。一方、保護者は、昨年度比で5%以上の減少が11項目でみられる結果で、その要因を検討する必要があると考えます。

### 1. 生徒調査より

集計結果では、昨年度に比べ11項目で肯定的回答が減少し、特に「5. 授業の学ぶ雰囲気」「10. 校則」「11. 相談できる先生」「17. 学級活動への取り組み」の4項目では5%以上の減少が見られます。

10. については、自由記述の中では服装について着こなしやリボン・ネクタイ等の追加などに触れているものがありました(9件)。本校の生活指導は T・P・O に照らして適切であるかを考えさせるなかで「社会性」を育むことをねらいとしています。

11. については、詳細をみると1年生の肯定的な回答をしている割合が5割強と少なさがみられます。今

後はすでに取り組んでいる教育相談の充実を図りながら、日常的な安心感につながる関係づくりに努めます。

17. についても、学年が上がることで肯定的な回答の割合は高まっているところもあることから、今後の取り組みのなかで自己有用感を得られ、学級での存在感につながるような生活環境づくりを工夫します。

### 2. 保護者調査より

集計結果からは、「10. 校則」以外は昨年度比で全て減少の結果となり、11項目(「2. 教育目標達成への努力」「4. 家庭との連携」「5. 授業の学ぶ雰囲気」「6. 分かりやすい授業」「7. 教師の協力」「11. 相談できる先生」「13. 美化活動」「14. 危機管理」「16. 生徒の主体性を伸ばす」「17. 学級活動への取り組み」「18. 部活動」)で5%以上の減少となっています。

このうち、項目2・5・6・7・13・14・17は、選択肢「よくわからない」の回答が20%を越えており(他に項目9・12についても「よくわからない」の割合が高い)、特に1年生保護者にこの傾向が強くみられます(項目7の「よくわからない」は66%)。項目5・6・7・12についても、1年生と2・3年生では割合に差があることから、各項目の回答全体の肯定的評価の減少に

つながっているようすがうかがえますが、保護者側からみて学校の様子や取組等の見えにくさが強まっていることが考えられます。

項目「4. 家庭との連携」と「11. 相談できる先生」については、自由記述として「希望制の家庭訪問」についてご意見をいただきました。この変更は、教員の業務の軽減という視点もありますが、基本的には「ご家庭側の家庭訪問対応への困難さ」に配慮しての変更です。お仕事などの調整でご負担をかけますがご希望がありましたらお申し出ください。また、自由記述で教員の生徒へのかかわり方について疑問・不信を持たれているとのご意見がありました。入学前の説明会でもお話したように、日常の中での教職員とご家庭の連携・協力は、お子様の成長を支える大切な要因だと考えています。ご家庭でのお子様との会話の中で気になることがありましたら、ぜひ学校までお問い合わせください。学級担任、部活動顧問、教科担任等に直接話しにくい場合でも、学年主任または教頭がお話を伺います。ご理解・ご協力をお願いいたします。

項目「18. 部活動」について、自由記述として部ごとの活動内容の在り方や活動内容の違い、選択肢の少なさ等へのご意見をいただきました。部活動は教育課程外での活動ではあるものの「学校教育の一環として教育活動との関連が図られるよう留意すること」とされています。また「その際、学校や地域の実態に応じ、地域の人々の協力、社会教育施設や社会教育関係団体等の各種団体との連携などの運営上の工夫を行い、持続可能な運営体制が整えられるようにするもの」とあります。

教員の異動による顧問の充当も含めて、可能な限り調整はしていますが、各種大会運営を含む休日の引率や早朝や放課後の活動の保障などとの兼ね合いも含めて、現状は引き受けられる範囲の中で各顧問が生徒の活動できる環境を維持することで手一杯であ

ることを御理解ください。また、地域移行については、移行先となる地域団体等の整備が市・地区の動きとして進んでいないため、現状を支えていくことが現在の学校の使命だと考えています。一方で、「教員の働き方の改善」の流れから教員への活動時間の制限も進んでおり、現状でも長期休業中の土日祝日について原則活動(=勤務)しないとなっています。

部活動の在り方については各ご家庭さまごまなお考えがあるとは思いますが、その環境の維持に努めている顧問の立場を御理解いただき、活動するお子様のために御協力ください。

なお、自由記述でお寄せいただいたご意見ご要望の概要は次のとおりです。

【生徒記述:68件】(内容不明・重複を含む)

・校則(服装)、授業・テスト(テストの難易度、騒がしき・学習の進め方や提示の仕方)、給食、教員のかかわり方(不公平・不平等感)、部活動(もっと活動したい)、行事、友人関係、など。

【保護者記述:32件】(重複を含む)

・施設(更衣室の設置)、教員のかかわり方(教育相談、家庭訪問、個別面談、進路相談、個別の対応等)、部活動(数、活動の時間・内容の是非)、授業・学習(支援体勢、塾)、学校経営の方向性(主体性育成の手立て)、など。

今回お寄せいただいた内容は全教職員で共有し、必要に応じて改善に活かしてまいります。ご協力ありがとうございました。

なお、この分析結果は、学校運営協議会委員からも評価していただきましたが、その中で、保護者への質問項目の見直しが必要では、とのご指摘をいただきました。コミュニティスクールとして共にスタートした小和田小学校とも協議しながら検討してまいります。